



ほんみちを

かえろう

— 犬養毅 —

いぬかいつよし



「こら、イネが いたんで しまうでは ないか。
あぜみちを とおらず、ほんみちを かえれ。」
おじさんが、大きな こえで となりました。田の
イネが、子どもたちに ふみつぶされて、たくさん
たおれて います。おちゅうで バッタとりを
していた せんじろうたちは、あわてて ほんみちの
ほうへ もどって いきながら、
「ほんみちは、いやだなあ。とおまわりに なるし、
虫も いないし。」
と、ぶつぶつ もんくを いいました。

でも、せんじろうは、さっき おじさんに しかられた ことを かんがえて、とても わるいことをしたと おもいました。

それから、しばらく たった ある日の ことです。

「おい、きょうは、だれも 見て いないぞ。あぜみちを かえって バッタを とろう。」

と、げんたが、さそいました。

せんじろうの目に、ふみつぶされた イネと おじさんの かおが、うかびました。

げんたは、くみで いちばん からだが 大きく、カモ つよいのです。はんたいすると、どんな いたずらを されるか わかりません。

子どもたちは、げんたに ついて あぜみちの ほうに いきかけて います。せんじろうは、立ちどまって かんがえました。



「ぼくは、ほんみちを かえるよ。みんなも
かえろう。」

せんじろうは、おもいきって 大きな こえで
いうと、さっさと ほんみちの ほうに
かけだしました。

みんなは、ちょっと びっくりして いましたが、
「せんちゃん、まってくれ。ぼくも ほんみちを
かえる。」

と、いいながら、つぎつぎに せんじろうの
あとを おって いきました。げんたも、
しかたなく みんなと いっしょに ほんみちを
かえりました。

空は、どこまでも 青く すみきつて、ちかくの いえの にわには、赤い
ハゲイトウが かぜに ゆれて いました。



犬養毅 犬養木堂記念館所蔵

せんじろうは、そのち 名まえを
「いぬかいつよし犬養毅」と あらため、そうり大じんと
なつて 日本の ために はたらきました。
いまも、おかやましきたくきびつ岡山市北区吉備津に、犬養毅の
どうぞうが たてられて います。

1 主題名 よいと思うことを進んで

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、A 善悪の判断、自律、自由と責任「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」である。人として行ってよいこと、行ってはいけないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、幼い時期から徹底して身に付けておくべきものである。また、自分勝手ではなく正しく判断できる力を伴って、何事にも積極的に取り組む姿勢が大切である。

そこで、低学年では、進んで行すべきよいことと、人間として、してはならないことを正しく区別できる判断力を養い、よいと思うことができたときのすがすがしい気持ちを想起させるなどして、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養いたいと考える。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、よいことをして褒められたいという意識はもっているが、友達の誘いや利害などその場の条件や相手によって、自分がよいと思うことを進んで行うことができにくいことが多い。よくない行動と分かっているながらも誘われるとついつい断れなかったり、自分が進んでよいことをしなくてもよいと思ったりするようなことがしばしば見られる。

そこで、人に左右されることなく、よいことと悪いこととを的確に区別し、自分が正しいと信じているところに従って行動できるようにしたい。

(3) 教材について

犬養毅は、小さい頃から大変わんぱくであったけれど、温かい思いやりの心と、正しいと信じたことはたとえ一人になっても突き進んでいく行動力をもった人である。この話は、犬養毅が11歳の頃、仙次郎という名で漢学の塾へ通っていたときのことである。力の強いげん太に「あぜ道を帰ろう」と誘われた。あぜ道は近道になるしバツタもたくさんいておもしろい。他のみんなは、げん太について行こうとした。ところが、仙次郎は「ぼくは、本道を帰るよ。」と断った。それは、本道を帰るのが正しいことであぜ道を通るのはいけないことだと考えたからである。

してはいけないことは絶対にしないという正しい判断を貫き通し行動した仙次郎の心の中を考えさせたい。そして、よいと思うことができたときのすがすがしい気持ちを捉えさせ、よいと思うことを進んで行おうとする態度を養いたい。

◇板書例

<p>○よいとおもうことをしようとしたときのこと</p>	<p>◇よいこととわるいことをくべつして、わるいことにきそわれても、おもいきって、よいとおもうことをする。</p>	<p>ほんみちをかえりながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなでほんみちをかえってよかった。 ・ やっぱりよいとおもうことをするといいきもち。 	<p>あぜ道に誘われた場面の絵</p>	<p>「あぜみちをかえろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だれもみてないし、げん太がこわい。 ・ のうかのひとにめいわくをかけてしまう。 ・ わるいことはぜったいにしてはいけない。 	<p>「あぜみちをかえろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ したかられて、いやだなあ。 ・ たのしかつたけど、わるいことをしたな。 ・ やっぱりほんみちをかえるのがたのしい。 	<p>地図</p> <p>犬養毅の写真</p>	<p>めあて</p> <p>よいとおもうことをするためにたいせつなことをみつけよう。</p> <p>ほんみちを かえろうー犬養 毅ー</p>
------------------------------	---	---	---------------------	---	---	-------------------------	--

◇参考

犬養毅（1855～1932年）。備中国庭瀬村（岡山市北区川入）に生まれる。1890年第1回衆議院選挙に当選、以後1898年文部大臣、1931年内閣総理大臣となる。1932年の5・15事件で殺害される。

3 ねらい

よいと思うことをするために大切なことを考える中で、よいことと悪いこととを区別して悪いことに誘われてもはっきりと断ってよいことをすると、すがすがしい気持ちになることに気付き、自分がよいと思うことを進んで行おうとする態度を養う。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 犬養毅について聞き、めあてをつかむ。	○ 犬養毅という人を知っていますか。 ・犬養毅さんは、どんな人かな。 ・悪い遊びって何だろう。 よいと思うことをするために大切なことを見付けよう。	・犬養毅の写真や簡単な地図を見せながら、みんなと同じ岡山県出身の総理大臣であったことを話した上で、子どもの頃悪い遊びに誘われたことを話題にし、めあてにつなぐようにする。
2 「ほんみちをかえろうー犬養毅ー」を読んで話し合う。	○ おじさんに叱られてみんなと本道を帰りながら仙次郎はどんなことを考えていたでしょう。 ・しかられて、いやだなあ。 ・楽しかったけどバツとりはいけなかった。 ・稲を踏みつぶして悪いことをしたな。 ・やっぱり本道を帰るのが正しいことだ。 ◎ げん太に「あぜ道を帰ろう。」と誘われたとき仙次郎はどんなことを思ったでしょう。 ・誰も見ていなくても、げん太に誘われても、悪いことは絶対にしないぞ。 ・自分がよいと思うことをしよう。 ・大事な稲を踏みつけて農家の人に迷惑をかけるはいけなから、本道を帰ろう。 ・誰も見ていないから叱られないし、げん太が怖いし、あぜ道に行こうか、どうしようか。 ○ 本道を帰りながら、仙次郎はどんなことを思っていたでしょう。 ・みんなで本道を帰ってよかった。 ・よいと思うことをするといい気持ちだ。 よいことと悪いこととを区別して、悪いことに誘われても、はっきり断って、よいと思うことをすることが大切だな。その方が気持ちいい。	・本道とあぜ道の違いを補説し、あぜ道を通してバツをとりたくなった仙次郎の気持ちに共感できるようにする。また、農家の人に迷惑をかけてしまうので本道を帰らなければならないと正しい判断もできていたことに気付かせる。 ・げん太に誘われたときの仙次郎の気持ちをワークシートに書かせることにより、人に左右されがちな人間の弱さについて考えることができるようにする。 ・「ぼくは、本道を帰るよ。」と言った根拠を話し合うことにより、単に叱られるのがいやだからではなく、自分がよいと思うことを進んでしようとしたことに気付くことができるようにする。 ・本道を帰っていると、友達やげん太がついてきたときの仙次郎の気持ちを考えることで、よいと思うことを進んでしたときのすがすがしい気持ちを感じ取ることができるようにする。
3 よいと思うことを行うことについて、今までの自分を振り返る。	○ 自分がよいと思うことをしようとしたときのことを考えてみましょう。 ・悪いと思ったけど、ついつい誘われてしまったことがある。 ・ドキドキしたけど、思い切って「止めよう。」と言って、すっきりしたことがある。	・場面絵を提示し、よいと思うことをしようとしたときのことを想起させ、そのときの自分は、どんな気持ちでどのように行動したかを振り返ることができるようにする。 ・よいと思うことを進んでするために大切なことを一人一人が自分のカードにまとめるようにする。
4 先生の話聞く。	○ 先生の話を読みましよう。 ・先生にもこんなことがありましたよ。 わたしは、よいと思うことを進んでするためには、○○することが大切だと思った。	・教師が体験したことを話すことにより、実践しようとする意欲を高める。
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・人に左右されず自分がよいと思うことを進めると、すがすがしい気持ちになることに気付くことができたか。 ・よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行おうとする意欲を高めることができたか。 	

5 他教科等との関連

日常生活等で自分がよいと思うことを進んでしようとしたことを把握しその都度称賛するようにする。

ほんみちを かえろう ― 犬養 毅 ―

いぬかい

つよし

2年（ ）組（

）

○あぜみちをかえろうと、さそわれたとき、
せんじろうは、どんなことをおもったでしょう。

